

地域みんなで取り組む！

ときどき入院ほぼ在宅 ～入退院支援を考える～

日時：令和5年8月18日（金）14：00～15：30

場所：西宮市市民交流センター 2階ホール

参加者 58名

本格的な高齢社会を迎え、入院医療で「治す」ことに特化した機能だけでなく、在宅医療や外来医療を含め「治し、支える」医療が求められています。

介護が必要になっても在宅を中心に入退院を繰り返しながらも（「ときどき入院ほぼ在宅」）、生活の質を重視しながら必要な医療を受け、在宅では個別ニーズに寄り添って支援していくことが私達専門職には求められています。そこで、今回、病院の機能を知ろう！というテーマの元、西宮市内の各病院に病床機能説明をしていただき、今後の支援に活かしていけるよう学びを深めました。

講師：医療法人財団 樹徳会 上ヶ原病院

副看護部長 認定看護管理者 神崎 綾子 先生

病床機能紹介：兵庫医科大学病院（高度急性期）、西宮市立中央病院（急性期・一般病）、高田上谷病院（地域包括ケア病床）、上ヶ原病院（医療療養型病床）、西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院（回復期リハ病床）、協和マリナホスピタル（緩和ケア病床）、仁明会病院（精神科病床）、熊野病院（介護医療院）



「各病院の特性がよく分かった」「相談員の方と顔が見える関係が作れるような気がしました」や「病院の機能、役割を理解し連携を図りたい」など今後の支援に「大変役立つ・役立つ」とアンケートに記入してくださった方が97.7%でした。皆様にとって有意義な研修であったのではないかと思います。講師の皆様、お忙しい中、ご講義いただきありがとうございました。

中央・瓦木・北部在宅療養相談支援センター（記録：大野）